

# ヘルスサービスリサーチ分野

生活と調和した医療のためにー



筑波大学医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野  
筑波大学ヘルスサービス開発研究センター  
教授・センター長 田宮 菜奈子

<http://hsr.md.tsukuba.ac.jp/>



ヘルスサービス開発研究センター

在宅診療等、現場で感じた疑問がスタート

# 自宅退院を目指しリハビリ達成しても家に帰れない 在宅ケアを希望してもかなわないIVH癌患者



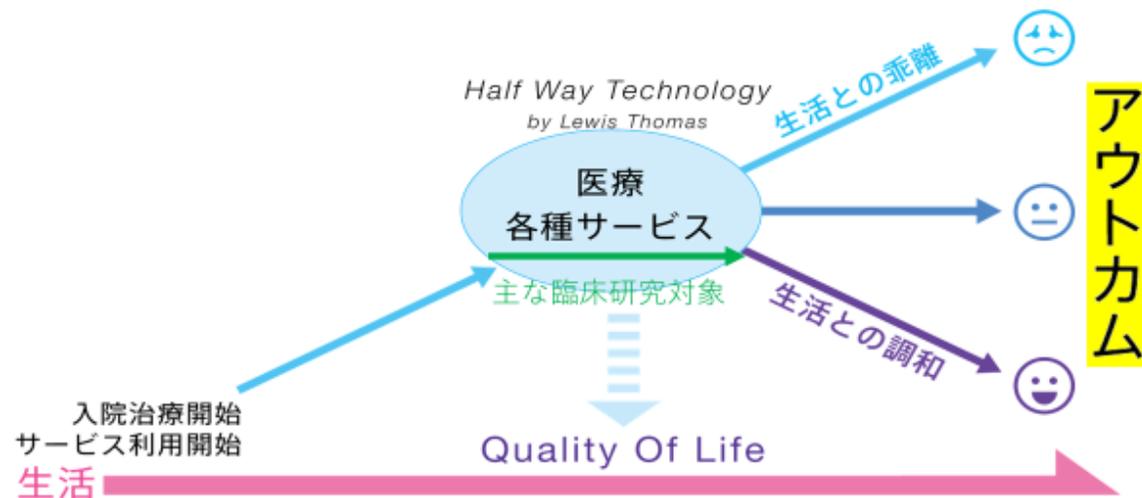
病院での高い医療技術とともにありつつ・・・  
質の高い生活につながらない！  
一人の医師の力では限界！  
→社会医学・公衆衛生学へ(下記は入学時のプレゼン)

医療の前後を含めた視点の重要性

必要な人が医療にアクセスできているのか？  
医療の後のアウトカムは？生活の質は？

高度医療も片道切符の技術(Halfway-Technology)  
になっていないか

在宅医療の評価研究で学位取得（しかしマイノリティー）



生活と調和した医療のために

# HSR(Health Services Research)

人に健康・幸福にもたらす医療技術を、必要な人に、いかに効果的にサービスとして届けるかを学際的に研究する学問分野：HSRに米国留学で1993年に出会う。

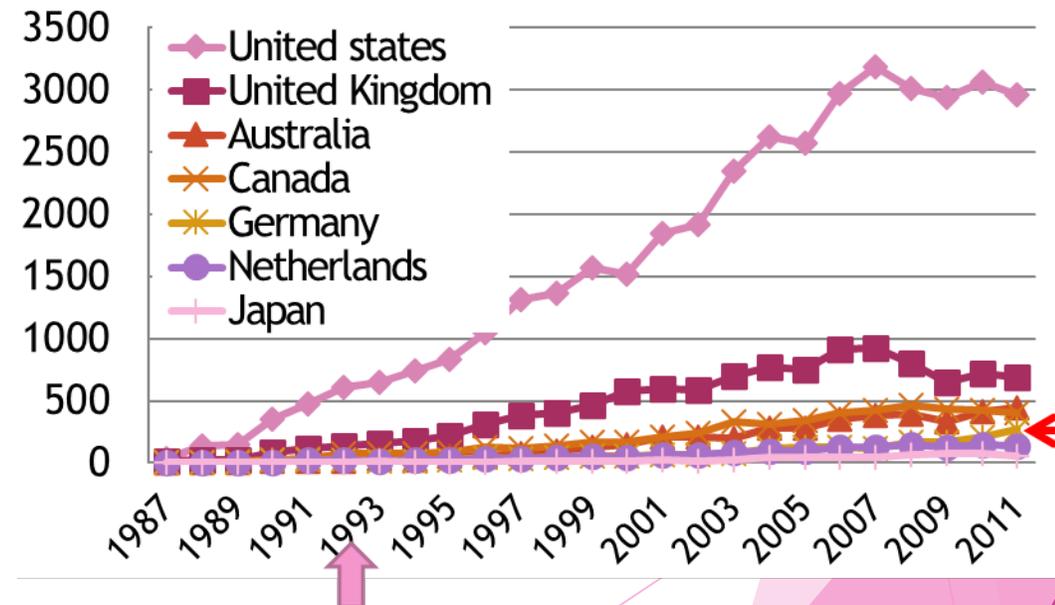


臨床医学

HSR

社会医学

HSRをキーワードに含む論文における国別\*論文数の年次推移(1987~2011年)



日本でHSR開講を夢見て帰国。

10年後、筑波大学で開講。我が国初のHSRの特化した研究室。

**HSRが必修科目に位置づけられたMPHは本学だけ！**

# ユニークな先生たち <https://hsr.md.tsukuba.ac.jp/introduction/member/>

一丸となってみなさんをサポートします。



田宮 菜奈子  
Nanako Tamiya

## 所属

医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野 教授  
ヘルスサービス開発研究センター センター長

## 資格・仕事

医師（医学博士）、公衆衛生学修士、介護支援専門員

## 専門分野

公衆衛生

国内外でMPHやHSRの学位を取得した教員が多数  
(本学MPH, 東大MPH, Harvard, UCLA London School etc)

## 教授 (クロスアポイント)



杉山 雄大  
Takehiro Suiivama

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野  
国立国際医療研究センター 研究所 糖尿病情報センター 医療政策研究室長

## 資格・仕事

社会医学系専門医・指導医、日本糖尿病学会専門医、内分泌代謝専門医、総合内科専門医、Master of Science in Health Services、博士（医学）

## 准教授



岩上 将夫  
Masao Iwagami

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野

## 資格・仕事

医師、公衆衛生学修士、Master of Science in Epidemiology (University of London)、Doctor of Philosophy in Epidemiology and Population Health (University of London)  
日本内科学会認定内科医  
Educational Commission for Foreign Medical Graduates (ECFMG) certificate in the USA Professional certificate in pharmacoepidemiology and pharmacovigilance (London School of Hygiene and Tropical Medicine)

## 助教



宇田 和晃  
Kazuaki Uda

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野

## 資格・仕事

理学療法士、博士(医学)

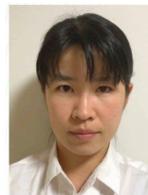
増田 理恵  
Rie Masuda

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野

## 資格・仕事

看護師、保健師、博士(保健学)



孫 瑜  
Sun Yu

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野  
筑波大学附属病院 総合診療科

## 資格・仕事

MD

## 客員教授



阿部 智一  
Toshikazu Abe

## 所属

筑波記念病院 救急科  
資格・仕事  
救急科専門医、集中治療専門医、プライマリケア指導医、MPH、PhD・救命救急医  
専門分野  
救急・集中治療 臨床研究  
最近の研究テーマ  
救急医療とHSR、集中治療とHSR  
抱負など  
重症患者に国際標準的な診療を届けることができる研究を行います

渡邊 多永子

Taeko Watanabe

## 所属

医学医療系 ヘルスサービスリサーチ分野

## 資格・仕事

医師



Felipe  
Sandoval

## 所属

医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野  
地球規模学位プログラム

## 資格・仕事

MPH、PHD

# HSR研究例紹介

The Lancet Special Series on Japan: Universal Health Care at 50 years

『ランセット』日本特集号：国民皆保険達成から50年

2011年9月1日刊行

我が国の皆保険制度導入50周年を記念し、世界的医学雑誌『ランセット』の日本特集号が9月1日に日英で同時刊行されました。

本号は、日本が短期間で長寿社会を実現した要因、皆保険制度の長所と限界、高品質低コスト医療の実態、急速な高齢化に対応する介護保険制度導入による成果と課題、保健外交における日本の優位性と役割を主要テーマとして科学的分析と検証を行い、国内外に向けて提言を行っています。『ランセット』はこれまでに、メキシコ、中国、東南アジア、インド、南アフリカの特集号を組んでいますが、先進国単独で特集が組まれたのは日本が初めてです。

保健医療分野をめぐる国際的な議論では昨今、皆保険、少子高齢化への対応に関心が集まっており、50年も前に皆保険を達成し、高い平均余命を誇る高齢化先進国日本の経験は、海外から注目されています。さらに、高齢化、経済の低迷、財政赤字等によって、従来のやり方では立ち行かなくなってきている状況そのもの、さらにそれをどう克服しようとしているのかも、近い将来、同様の課題に直面する近隣諸国に示唆を与えるものと言えます。

本特集号が、国内に留まらず、国際的な保健医療分野の政策論議に寄与することを祈念しています。

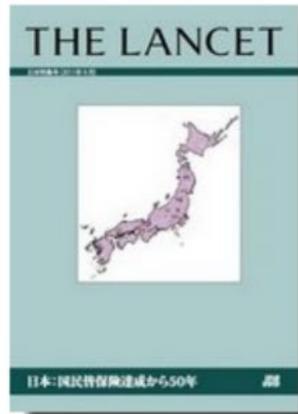
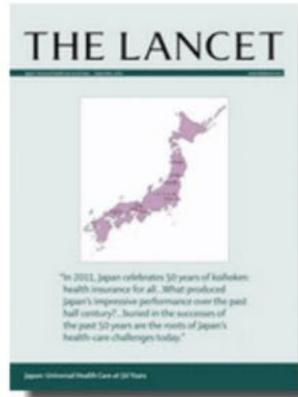
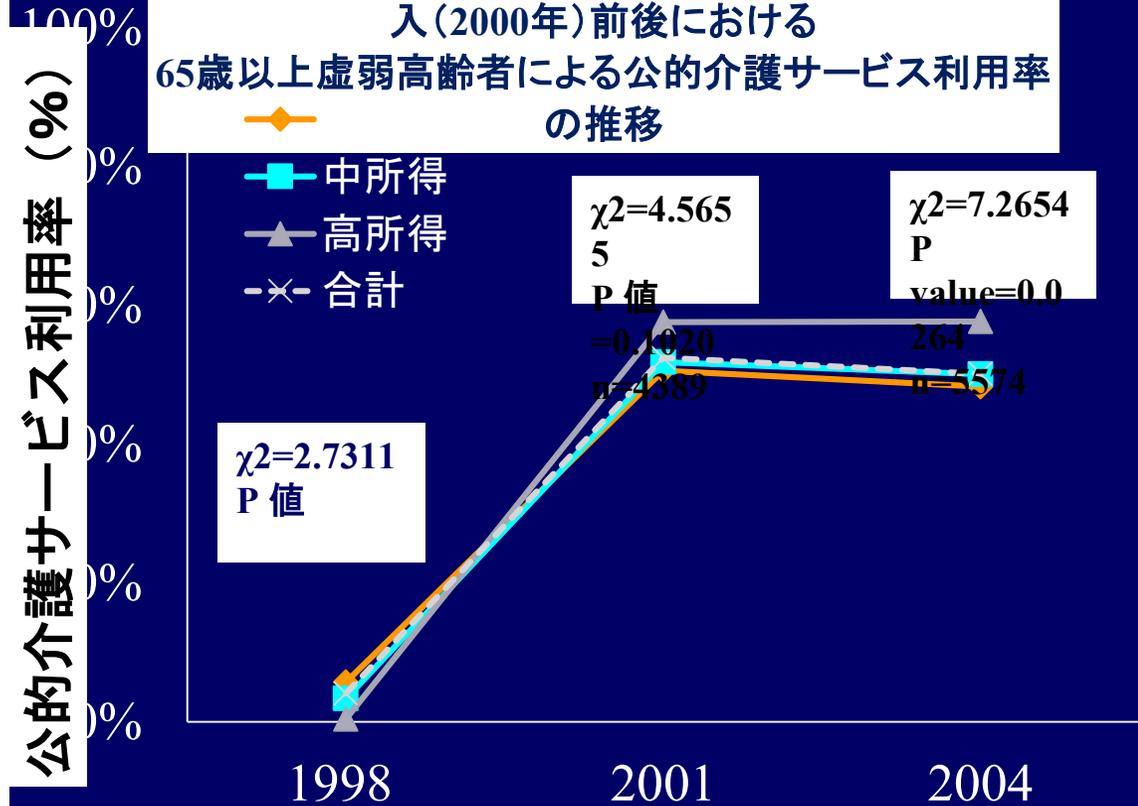


図2: 世帯所得階層(3分位)別、公的介護保険制度導入(2000年)前後における65歳以上虚弱高齢者による公的介護サービス利用率の推移



措置の福祉の時代では低所得の方が利用が高かったが、介護保険(一律自己負担発生)の後には、高所得の方が有意に高い。

# 研究テーマ

- ▶ NDBやDPC データを用いた医療の質に関する分析
- ▶ 全国介護レセプトデータ等を用いた介護の質に関する分析
- ▶ 医療介護連結データ（自治体レベル）を用いた医療介護連携やケアの質に関する分析
- ▶ 介護保険事業（支援）計画に役立つ地域指標人生の最終段階における医療のあり方に関する調査の手法開発及び分析に関する研究
- ▶ グローバルエイジング：世界の高齢化に向けた海外データとの比較研究など
- ▶ 家族介護者の現状把握（就労状況・世帯収入および貯蓄・健康状況）
- ▶ 歯科口腔保健の新たな評価方法・評価指標の開発のための調査研究

## 最近の業績

1. Kuroda N, Iwagami M, Hamda S, Komiyama J, Mori T, Tamiya N. Associations of polypharmacy and drugs with sedative or anticholinergic properties with the risk of long-term care needs certification among older adults in Japan: A population-based, nested case-control study. *Geriatrics & Gerontology*, <https://doi.org/10.1111/ggi.14393>, 2022.
2. Mori T, Komiyama J, Fujii T, Sanuki M, Kume K, Kato G, Mori Y, Ueshima H, Matsui H, Tamiya N, Sugiyama T. Medical expenditures for fragility hip fracture in Japan: a study using the nationwide health insurance claims database. *Arch Osteoporos*, 17, 61, <https://doi.org/10.1007/s11657-022-01096-8>, 2022.
3. Sakata N, Okumura Y, Ogawa A. Postoperative Pain Treatment in Patients with Dementia: A Retrospective Observational Study. *Drugs Aging*, doi: 10.1007/s40266-022-00932-3, Epub ahead of print, 2022
4. Adomi M, Kuno T, Komiyama J, Taniguchi Y, Abe T, Miyawaki A, Imai S, Morita K, Saito M, Ohbe H, Kamio T, Tamiya N, Iwagami M. Association between pre-admission anticoagulation and in-hospital death, venous thromboembolism, and major bleeding among hospitalized COVID-19 patients in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf*, doi: 10.1002/pds.5433, Online ahead of print, 2022
5. Jinnouchi H, Kitamura A, Matsudaira K, Kakihana H, Oka H, Yamagishi K, Kiyama M, Iso H. Brief self-exercise education for adults with chronic knee pain: a randomized controlled trial. *Mod Rheumatol*, online ahead of print, 2022
6. Itoh S, Tan HP, Kubo K, Ogata Y. Comparison of the Mental Burden on Nursing Care Providers With and Without Mat-Type Sleep State Sensors at a Nursing Home in Tokyo, Japan: Quasi-Experimental Study. *JMIR Aging* 5(1) e19641-e19641, 2022
7. Mitsutake S, Ishizaki T, Tsuchiya-Ito R, Uda K, Jinnouchi H, Ueshima H, Matsuda T, Yoshie S, Iijima K, Tamiya N. The effects of early post-discharge rehabilitation services on care-needs level deterioration in older adults with functional impairment: A propensity score-matched study. *Archives of Physical Medicine and Rehabilitation*, S0003-9993(22)00021-1, doi: 10.1016/j.apmr.2021.12.024, Online ahead of print, 2022
8. Suzuki A, Jin X, Ito T, Yoshie S, Ishizaki T, Iijima K, Tamiya N. Factors affecting care-level deterioration among older adults with mild and moderate disabilities in Japan: Evidence from the nationally standardized survey for care-needs certification. *International Journal of Environmental Research and Public Health*, accepted in 2022

# 大学院生

## ▶ 博士課程（医学）

D4 井澤 智子  
谷口 雄大  
服部 早苗  
D3 坂本 彩香  
島田 憲佑  
山岡 拓弥  
D2 鍛治田 倫英  
河村 千登星  
中野 寛也  
山本 行子  
D1 横山 良太

## ▶ 博士課程（ヒューマン・ケア、パブリックヘルス）

D3 川邊 万希子  
大森 千尋  
西川 貴清  
小宮山 潤  
D2 浜崎 曜子  
D1 鈴木 愛

## ▶ 修士課程（MPH）

M2 藤原 怜峰  
張 可欣  
島田 憲佑（デュアルディグリー）  
M1 袁 梦舸  
樽見 隼人  
山形 澄香  
河村 千登星（デュアルディグリー）

\* 休学者は除く

# 医療と介護にデータの光をあて 生活と調和した医療 QOL向上に資する介護へ



ヘルスサービス開発研究センター ロゴ

生活と調和した医療のために

みなさん、と一緒に、楽しく意義ある研究を進めていきましょう！